

Jera

エネルギーを新しい時代へ

2025年度下期 定例会見説明資料

2026年2月18日
株式会社JERA



目 次

はじめに:

世界的な電力需要増加の中、脱炭素化の流れは止まっていない	2
------------------------------	---

第Ⅰ部:脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

1. 初の日本向け低炭素アンモニアバリューチェーン構築が進捗	4
2. 黎明期の国内洋上風力事業を前進させ、社会に定着させる	5
3. 脱炭素価値を創出し、GXが定着する社会へ	6
4. 脱炭素価値で地域に根ざした事業を高付加価値化	7
5. 脱炭素の価値に共感できる場を創出	8

第Ⅱ部:重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

6. 重要性が高まる火力発電を最大限活用するために（全体像）	10
7. 蓄電池の導入により、火力発電機の負荷を軽減	11
8. 補修部品を戦略的に確保し、計画外停止時も迅速に修復	12
9. 安定性と柔軟性を高めたLNGポートフォリオの強靭化	13

はじめに

世界的な電力需要増加の中、脱炭素化の流れは止まっていない

- 世界は脱炭素の歩みを止めていない。
- 各国は、地域特性に応じて強みを活かせる脱炭素エネルギーの開発を着実に進めている。
- AIなど、デジタル・データ向け需要の拡大で電力・エネルギー逼迫が世界的に進展。
- 当社は、LNG・再エネ・水素/アンモニアの3つの戦略的事業領域の手を緩めず、経済安全保障にも寄与しながらソリューションを提供し続ける。

止まらない「脱炭素」の潮流

脱炭素

米国: 原子力、低炭素燃料開発を進め、輸出アクセル
中国: グリーン産業を育成

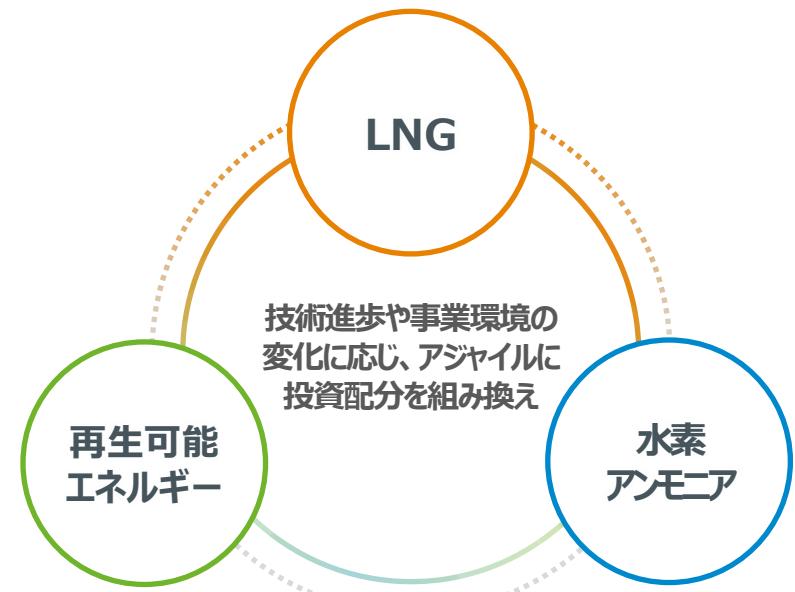
電力逼迫

AI普及によるデータセンター向け電力需要の急増

世界情勢

経済安全保障の重要度増

JERAの戦略的事業領域の重要性の高まり



世界に取り残されぬよう、脱炭素化を着実に進め、足元の電力需要にも確実に応えていく

第Ⅰ部： 脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

1. 初の日本向け低炭素アンモニアバリューチェーン構築が進捗

- 価格差に着目した支援制度の認定を受け、2029年度完成予定のアンモニアバリューチェーン構築が前進。
- 製造、調達・輸送、利用の各分野の取り組みも加速。

- 碧南火力発電所を起点に、脱炭素を目指す全てのお客さまに対し、アンモニアを活用した最適かつ最先端で効果的なソリューションを提供。

＜低炭素アンモニアバリューチェーン＞



1 低炭素アンモニア製造

- 米国「Blue Point」プロジェクトの建設工事の許認可を申請中。
- 2029年後半に生産開始予定。



Blue Point 完成予想図（提供：CF Industries社）

2 アンモニア輸送船団

- 日本郵船グループ、商船三井との間で用船に係る基本合意。



（提供：日本郵船株式会社）

3 火力発電所における大規模燃焼

- 碧南火力発電所で建設工事が順調に進捗。（進捗率22.4%：2025年12月末時点）



碧南火力発電所商用アンモニアタンク建設工事
(2026年1月5日時点)

アンモニア輸送船のイメージ画像

脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

2. 黎明期の国内洋上風力事業を前進させ、社会に定着させる

- ・2025年8月、JERA Nexとbpの洋上風力発電事業を統合。
- ・開発中案件を含む持分容量1,300万kW規模のスケールメリットと、規律あるポートフォリオ管理を通じてプロジェクトを推進するグローバルな規模の洋上風力会社「JERA Nex bp」を発足。

第2 ラウンド

男鹿市・潟上市・秋田市沖洋上風力発電事業
(31.5万kW) 2028年6月運転開始予定

主な進捗

- ・陸上送変電工事、基地港整備工事を実施中
- ・国産CTVの長期定期傭船契約、風車基礎工事契約、基地港整備工事契約など締結
- ・秋田県、男鹿市、潟上市との立地協定を締結
- ・第3次保証金の納付



基地港（秋田港）整備

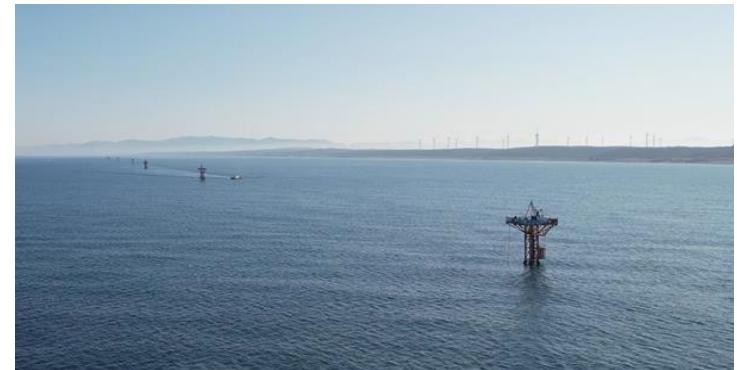
- ・厳しい事業環境ではあるが、国内洋上風力事業がマーケットで自立できる環境づくりを進める。
- ・まずは、国内の2つの洋上風力プロジェクトの完遂に向けて、株主としてJERA Nex bpをサポート。

第3 ラウンド

青森県沖日本海（南側）洋上風力発電事業
(61.5万kW) 2030年6月運転開始予定

主な進捗

- ・2025年8月に海底地盤調査を完了
- ・事業者認定後、初の法定協議会への参加
- ・公募占用計画の認定



青森県沖日本海（南側）の海底地盤調査

脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

3. 脱炭素価値を創出し、GXが定着する社会へ

- ・地域に根ざした事業に脱炭素を価値として付加し、高付加価値化。
- ・さらに、脱炭素を価値としてより身近に感じてもらえる取り組みを進める。
- ・そしてGXが定着する社会へ。

地域に根ざした事業を高付加価値化（7ページ）

地域の強みの 価値化

地産再エネとDXで地方の魅力を価値化し、利益還元できる事業モデル

SMBCグループ、ヤンマーグループとの農林水産業の未来を創造する地域構想

産業構造 高付加価値化

高品質とサプライチェーン全体のGXの価値で域内産業全体を高付加価値化

四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた連携

価値に応じた価格がつけられる社会



脱炭素という価値領域の拡大（8ページ）

身近で受け入れ やすい脱炭素

スポーツなど身近な分野から、脱炭素への共感を形成

セ・リーグを通じ、球団・ファンと脱炭素の取り組みの共創を目指す

社会課題からの 価値の発見

温暖化などの社会課題に向き合い、 多様な視点で解決策に価値を見出す

SMBCなどの賛同企業と一般社団法人社会的価値共創フォーラムを設立

価値に共感できる社会



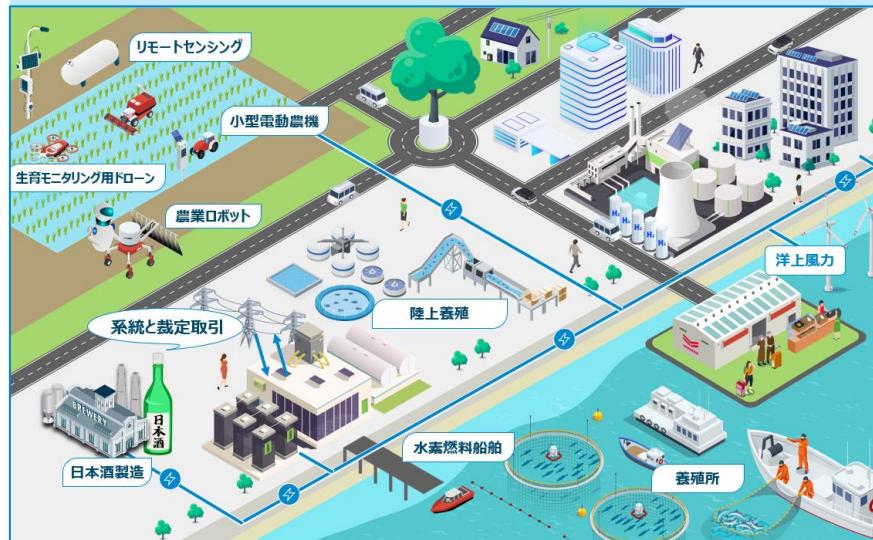
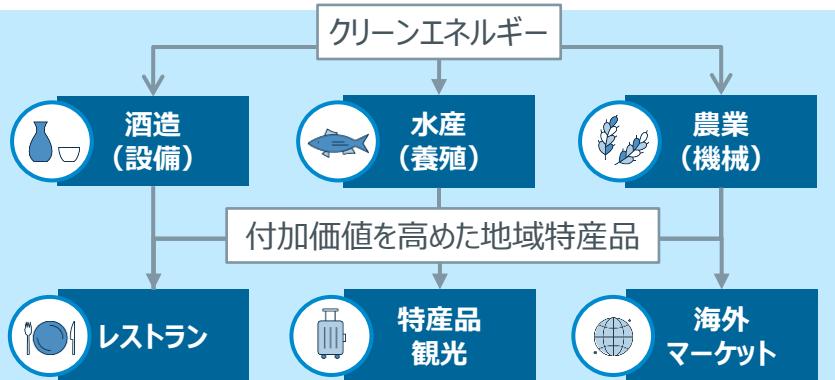
GXが定着する社会へ



脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

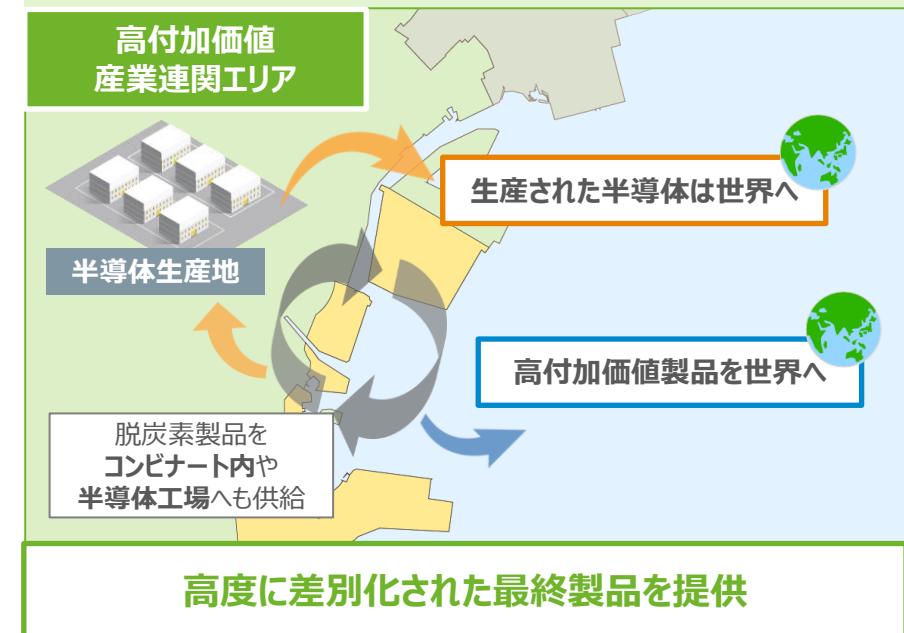
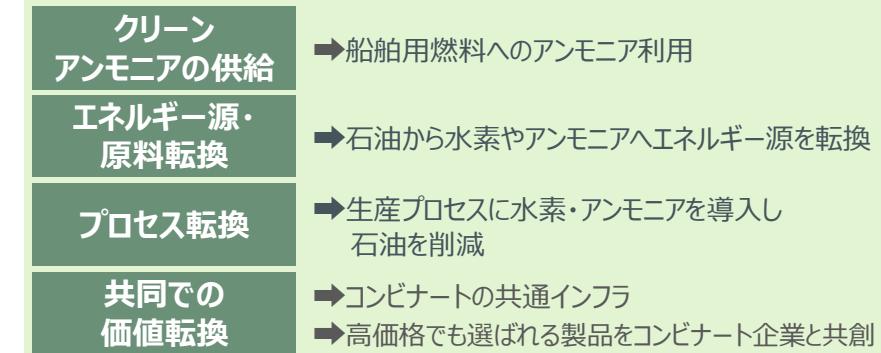
4. 脱炭素価値で地域に根ざした事業を高付加価値化

クリーンエネルギーの地産地消を通じた 地域産業活性化モデル



地元、パートナー、自治体と連携して一連を事業モデル化

クリーン燃料を使用した製品をつなぎ合わせた 「クリーン産業連関」



脱炭素化を着実に進め、GXが定着する社会へ

5. 脱炭素の価値に共感できる場を創出

身近なスポーツの脱炭素を通じて
脱炭素価値を身近なものへ

Jera セ・リーグ

これまでの取り組み（～2025年シーズン）



シティクリーン(清掃活動)



次世代支援(環境エネルギー教室)

- 当社を中心に6球団がつながり、ファンと一体となって地域貢献や社会貢献につながる活動を展開

これから取り組み（2026年シーズン～）

球団・ファンとともに、

脱炭素の取り組みの共創を目指す

今年度中に、新たな共創に関する公表を予定

領域を越えて社会課題を議論し
価値を創出する場の定着



社会的価値共創
フォーラム



東大先端研
Research Center for
Advanced Science and Technology
The University of Tokyo

SMBCなどの賛同企業と設立

〈円融の集い場〉

- 産官学に加え、芸術など多様な領域の人々が集い、地球温暖化など社会課題を議論
- 課題解決を社会的価値として追求する環境
- 高校生・大学生などの次世代も集め、社会課題認識のための視座を育成



第Ⅱ部： 重要かつ多面的な価値を持つ 火力発電事業の機能維持に向けて

重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

6. 重要性が高まる火力発電を最大限活用するために（全体像）

- データセンター向けなどの電力需要増と、再エネ拡大に伴うしわ取り（※）に対応できる電源として火力発電の重要性が増す。

（※）電力消費(需要)と供給を一致させる“同時同量”を維持するための発電量の調整

- 一方、火力発電機を酷使する中、資機材不足・価格高騰なども加わり、火力発電のおかれた環境が悪化。

- 火力発電機のリプレースとともに、既存火力発電の健全性維持と、安定かつ柔軟なLNG確保に全力で取り組む。

火力発電に求められる役割

- ① 電力需要増加への対応
- ② しわ取りへの対応

環境変化

- ① エネルギー資機材・工事要員不足・価格高騰
- ② 起動停止回数の急増に伴う計画外停止の増加
- ③ 世界経済の分断

リプレースの着実な実施（※2024年度上期・下期定例会見でご説明済）

+

既存火力発電の健全性維持 (11ページ・12ページ)

- ① 火力発電機が壊れないように
- ② 壊れた際にも迅速に修復

安定かつ柔軟なLNGの確保 (13ページ)

- ① 電力需要増加に備えた「量」の確保
- ② しわ取り対応への「柔軟性」の確保
- ③ 「緊急時」に備えたセキュリティの確保

重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

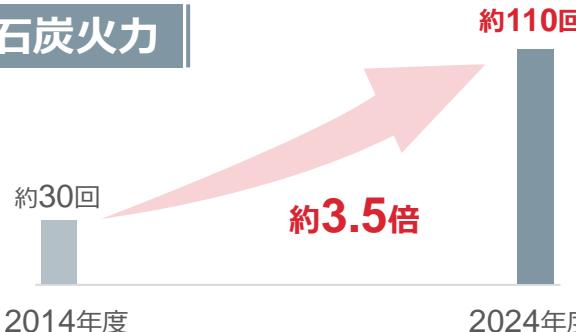
7. 蓄電池の導入により、火力発電機の負荷を軽減

- 季節や天候の影響を受けやすい再エネを補完するため、火力発電機の起動停止回数が想定以上に増え、不具合発生のリスクが増加。

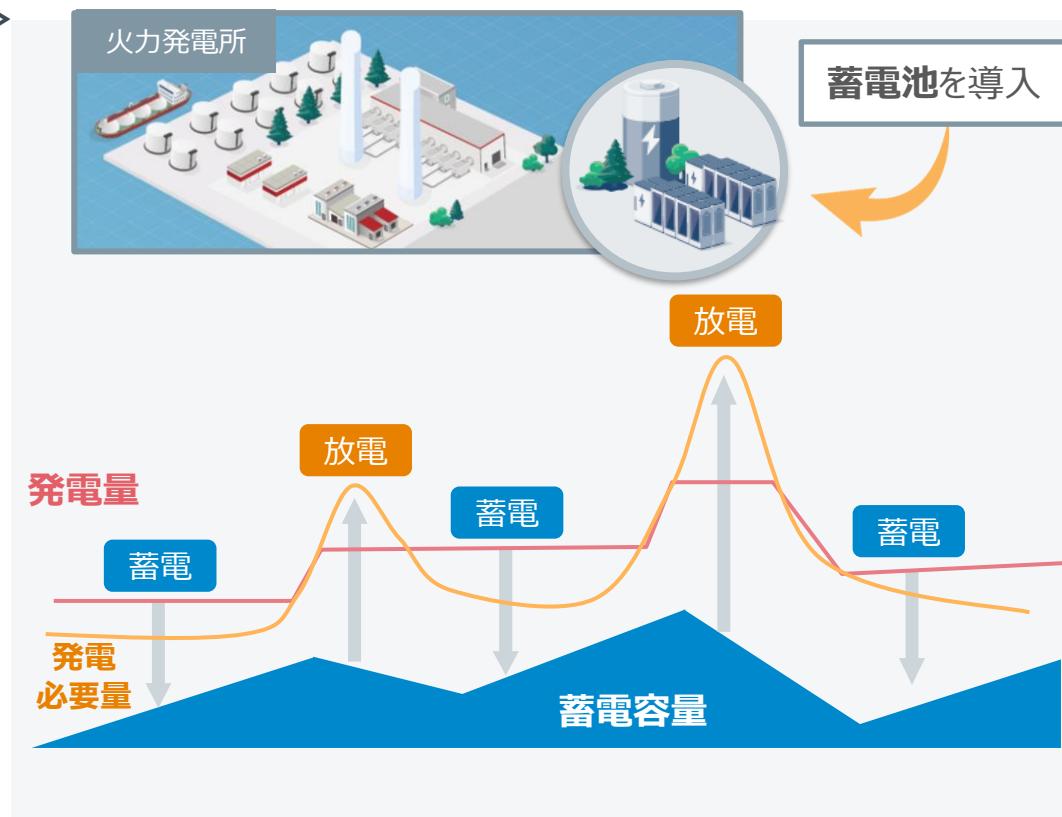
- 火力発電機と蓄電池を組み合わせて、火力発電機の起動停止回数の削減に向けた検討に着手。

＜当社国内火力発電所の起動停止回数（年間）＞

石炭火力



ガス火力



重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

8.補修部品を戦略的に確保し、計画外停止時も迅速に修復

- ・インフレ・人財難に加え、データセンターや再エネ設備の増加により、高圧ケーブルなどの設備部品の納期が長期化。

- ・戦略的な在庫拡充、設備トラブル復旧期間の短縮化、操業の安定・安全化を推進。
- ・資機材のプール運用に向け、グローバルベースでメーカー・発電事業者などとの連携を検討。

マクロ経済環境

資材価格・金利など大幅上昇

インフレ・円安

金利上昇

人財難

国内生産拠点縮小

納期の長期化（供給不足）

世界的な電源開発ブーム

データセンター・再生可能エネルギーの建設増加

事業環境

対策① | 設備リスク評価の実施

- ・設備不具合の発生頻度を踏まえ、資材毎に在庫量を積み増し
- ・DXを活用した監視を実施

対策② | 早期調達・適時調達の実現

- ・電力系統に接続する変圧器・高圧ケーブルなどの段階的確保
- ・長納期化する特殊資材材料を確保し、必要時に加工
- ・グローバルにメーカー・発電事業者などと連携



重要かつ多面的な価値を持つ火力発電事業の機能維持に向けて

9. 安定性と柔軟性を高めたLNGポートフォリオの強靭化

- 世界的な電力需要の増加が見込まれる中、同時に需要の不確実性・季節間格差が高まっている。変動する需要に確実に応じるために、安定性と柔軟性を高めたLNGポートフォリオが不可欠。

- 歴史的に、高い供給安定性と信頼性を持つカタール産LNGと仕向地制約がなく柔軟性の高い米国産LNGを加えることで、LNGポートフォリオの安定性・柔軟性・地域多様性を強化。
- カタール産LNGは、需要急増時だけでなく、緊急時の調達先として、日本の経済安全保障への寄与も期待。

